

南半球便り（その 70）：姉妹都市交流（アデレード・姫路）

4月26日

日豪間の交流の太さを表す指標のひとつに、姉妹都市交流があります。実に107件もの姉妹都市・友好都市関係（101市区町・6都府県）が設立されています。今日はそこから話を始めましょう。

1. 姫路・アデレード

私が住んでいるキャンベラは奈良市、シドニーは名古屋市、メルボルンは大阪市、ブリスベンは神戸市等々、様々なつながりがあります。

今回私が南オーストラリア州の州都であるアデレードを再訪したのは、姫路市との姉妹都市関係が40周年を迎え、祝賀式典に招待されたからです。

【前回訪問の様子は、[南半球便り（その15）](#)をご覧ください。】



祝辞スピーチの様様

ヴェルショール・アデレード市長
(左から4番目)らと共に

2. 懐かしの白鷺城

実は、姫路市と私には特別な繋がりががあります。本省で経済局長を務めていた当時、神戸新聞に招かれて姫路市で講演をし、その際に清元市長と懇談をする機会に恵まれたのです。

また、在ロンドンの大使館勤務時代に大活躍してくれた秘書が姫路在住であること、経済局時代の優秀な部下がその後、姫路市に所在する摺河学園学園長として大活躍したことも、姫路を身近に感じる大きな理由です。

今回の式典でも、清元市長のお話をオンラインでうかがい、また、陽光に輝く姫路城の優美な姿をビデオで目にするにつれ、かつての訪問の思い出が鮮明に蘇りました。

【[私のスピーチは、ここをご覧ください。](#)】



桜と姫路城（姫路市 HP より）



清元・姫路市長からのメッセージを聞く参列者

貿易・投資関係、安全保障協力と次々に裾野が広がる日豪関係ですが、拠って立つ基本は、人的交流。その意味で、姫路市とアデレードが 40 年にわたり人的交流を積み重ねてきたことの重要性は強調し切れないでしょう。

3. 癒やしの日本庭園

せっかくのアデレード訪問の機会なので、姫路市が寄贈した日本庭園を訪れてきました。どこに行くにも 20 分で行けるので、「20 分都市」と称されるアデレード。そのゆとりある町並みの中にあっても、ひととき悠然と時が流れている、誠に美しい庭でした。



アデレードの中心に立つ「姫路」の碑

案内していただいたヴェルショール市長によれば、この庭園には誰もが無料で訪れることができ、時には結婚式も行われるとのこと。常に、世界で最も住みやすい町の上位にランクされてきたアデレードならではの、ゆとりと生活の質の高さを感じました。



手入れの行き届いた日本庭園

4. マリナスカス州首相との意見交換

南オーストラリア州では4月に選挙が行われ、地滑りの勝利を収めたマリナスカス首相が新たな州首相に選出されました。そこで、新任のマリナスカス州首相と、アデレード訪問の機会に意見交換をしてきました。

国際社会で進行中の地政学的な変動、日豪で共有する基本的価値の重要性に始まり、アデレード日本商工会の発足、日本航空乗務員のアデレード近郊での訓練開始などを受けて、これから経済、観光面でのつながりを具体的にどのように強化していくかなど、話は本当にかみ合い、充実していました。

何よりも、41歳という年齢ながらも輝くようなカリスマ性と、人の気をそらさないコミュニケーション能力に強く印象づけられました。いずれ訪日を実現してもらうのが、非常に楽しみです。



マリナスカス州首相（中央右）、チャンピオン州貿易大臣（左）と共に

5. アダムソン総督との夕食会

嬉しかったことに、前外務貿易省次官で、2021年10月から南オーストラリア州の総督に就任していた旧知のアダムソン総督から、総督公邸での夕食会に招待されました。

メルボルンの島田総領事夫妻、アデレードのアダム・ウィン名誉総領事夫妻と共に、由緒ある公邸に赴きました。ご本人は長年豪州の外交官として、台湾代表、中国大使、次官などの要職を歴任し、夫君は元英国外交官。それだけに、ご夫妻との会話は談論風発、宴は盛り上がりました。

何よりの光栄は、供された赤ワインが南豪州バロッサ・バレーきっての、豪州人なら誰しもが唸る極上のシラーズだったことです。外交の機微を知り尽くした総督ならではの、心温まる配慮でした。

総督、ご馳走様でした！次回はキャンベラの大使公邸でお返しをいたします。



アダムソン州総督（左から4番目）と共に

山上信吾